

(様式 2)

議事録番号

提出 2007年 10月 26日

## 会合議事録

研究会名：顕微ナノ材料科学

日 時：2007年9月11日

場 所：岡崎分子科学研究所

出席者：(議事録記載者に下線)

越川孝範、大門寛、木下豊彦、郭方准、渡辺義夫、尾嶋正治、柿崎明、小林啓介、小野寛太、小嗣真人等 計 45名

議題：東大の新ビームライン(東京大学物質科学アウトステーション)計画におけるビームラインの具体的な建設設計プランと設置予定測定装置の概要-II

### 議事内容

1. まず委員である新ビームライン計画の責任者である東大の尾嶋教授ならびに柿崎教授から東京大学物質科学アウトステーションの進捗状況ならびに問題点等の説明を受けた。そのあと、出席者との質疑応答が行われた。

その内容は以下の通りである。

この計画自身に委員がすでに関与していることもあり、進捗状況に関する質問が主なものであった。かつ予算の獲得の目途に関する質問も目立った。

このように計画自身は予定通り進んでいるという印象を与えたが、最終的な設置装置に関する予算獲得が大きな問題であるという指摘も行われた。これに関しては東大を通じた概算要求を行うばかりでなくユーザー自身も積極的に資金獲得に動いて欲しいという要望も出された。

この研究会で SPring-8 に設置されている装置に関するアンケート調査を行った。その結果以下のような強い要望が寄せられた。

1. 現状ではビームタイムは短すぎるので、ぜひビームタイムを長く取れるように強く要望したい。